



みちくさ 放浪篇

No.19 平成 30 年 7 月 22 日



土用の鰻

えっ？鰻ってこんなに高くなったのかとなんとも貧乏くさい話だけれど、夫婦二人で食べに行くと、8000円超えるとなると、これは一年に何度も食べに行くという訳にはいかなくなりそう。土用の時だけでいいかなと思ってしまう。それはそれとして、ところで鰻を食べると、昔の思い出がよみがえってくるから不思議だなと思う。

昔、子どもの頃、鰻を家で食べた記憶がない。それもそのはず。実は母親が鰻を食べず嫌い、そういう関係から、うちの食卓に上ることはなかったのだ。

初めて食べたのが高校生の頃か。なんともこんなうまいものをどうして食べさせてくれなかったんだと文句の一つもいいたいところだけれど、まあそんなに裕福な家ではなかったのだ、それもしかたない事情があったのだろう。

母親の実家に行ったとき、たぶん弟はその時いなかったから、なぜ俺と母親の二人だけだったのか記憶がない。軽い脳卒中に祖父がかかり、自宅で療養していたのだけれど、だいぶよくなったから、リハビリを兼ねて鰻を食べに行こうということになった。鰻は祖父の好物だったらしい。ちょうど孫が来ていたから、孫に連れて行ってもらおうということで、かり出されたわけだ。

自宅を出て、横手南小学校前の橋をわたり、ゆっくりと歩いて行った。「とぼとぼ」という表現がぴったりする感じの歩きだったな。とにかく時間はかかったんだけど、リハビリだから時間をかけて歩いたんだ。大町というところにあっただけだけれど、鰻屋まで祖父母と母と俺の4人で徒歩で行った。30分くらいかかっただろう。季節も夏休みだった気がする。横手の夏は、蝉時雨がすごくてねえ。たぶん、そんな景色だったんだろう。

とにかく鰻を食べたことがないわけで、これがまた衝撃だった。初めてだったから特に記憶に残ったと思うんだけど、今日食べた鰻より、もっと厚くふかふかしていたような気がする。どうしても比べてしまうねえ。今日食べたのはなんか薄いつて文句言いたくなるような。

横手の町もだいぶ区画整理され新しくなったので、その後でこの辺だったかなと探したことはあったんだけど、思い出の中にある鰻屋だけど、叔母に聞いたらもう無くなってしまったらしい。祖父は平成に入って秋田市へ引っ越してから、祖母も95まで生きて、4年前に他界した。土用に鰻を食べると、どうしてもあの横手で食べたふかふかの鰻が忘れられなくて、祖父母の思い出とも重なって切なくなるんだよねえ。お盆に帰省したら、また立ち寄りたと思う。